

先進地に学ぶ



文教民生 防府市・益田市

議会運営 上越市

総務 夕張市・栗山町

産業建設 梶原町・神山町

北海道夕張市を調査し、安定した財政運営のあり方を学びました。夕張市は、平成18年に巨額の赤字を抱え財政破綻。夕張市の財政悪化の要因は「観光施設への過大投資・不適切な財務会計処理など」と説明を受けました。これは当局側の責任だけでなく、チェック機能としての議会の責任も問われるものです。

調査の結果
栗原市においてもより一層健全な財政運営と、チェック機能として議会の重要性をより強く実感する機会となりました。



夕張市にて、財政再生計画に関する調査

総務 夕張市・財政再生計画に関する調査

10/23～25

地域に根ざした
廃校の利活用

北海道栗山町では、豊富な自然資源を生かし、自然体験活動を中心とした「ふるさと教育」という教育活動が推進されています。「雨煙別小

調査の結果
本市においても、行政と市民が協働する地域に根ざした利活用など、活用の方性の検討に工夫が必要であると考えます。

学校コカ・コーラ環境ハウス」は、閉校した旧雨煙別小学校を、栗山町が公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団から支援を受け、平成22年にオープンしたものです。本施設は自然体験プログラムを主とした宿泊施設となっており、地域の人々の意向などがうまく反映された施設でありました。

産業建設 中山間地域の農業の持続可能性を調査

11/13～15



梶原町のジビエカー

調査の結果
現在、本市は放射能の影響でジビエ利用は困難ですが、出荷制限解除を視野に入れ、処理方法の選択肢として検討する必要があります。

調査の結果
単なる農業や飲食業にとどまらない幅広い範囲で、地域の課題解決を担う取り組みは、本市においても事業展開が可能なのひとつの方策と考えられ、今後、生産者

(株)フードハブ・プロジェクトを設立した徳島県神山町を調査しました。大量生産、大量消費を前提にした従来の営農形態だけでは、農業の持続可能性を損ねると危惧し、アメリカの「フードハブ」を糸口に、少量生産と少量消費をつなぐ地域内経済を循環させる仕組みを実践していました。

有害獣のジビエ利用

高知県梶原町では、平成29年度にジビエカー（移动式解体処理車）を導入、併せて獣肉解体処理施設を整備しました。平成30年にはNPO法人を設立、食肉処理業も取得し運用を開始しています。ジビエは鮮度が重要で、施設に近い場所は猟友会員が直接搬入し、遠い場所はジビエカーで出向き処理を行っています。年を追うごとに捕獲個体がい

文教民生

一体的に提供する
介護予防と買い物支援

11/19~21



幸せます健康くらの調査

山口県防府市の向島地域で実施している「幸せます健康くらぶ」は、行政、地域住民、社会福祉法人、介護事業所が協働し、要支援者を主な対象として、介護予防と買い物支援を一体的に提供している事業です。地域内をバスが周る市内の大型店舗まで送迎し、皆で体操をした後、食事、買い物を行っています。

本市でも各地域で「くりはら元気アップ体操」など介護予防の取り組みが普及し、その効果を期待するとともに、防府市のような「移動支援」との組み合わせ

せなども参考としながら、継続して楽しく活動できることで元気な高齢者を増やす工夫が必要です。

地域医療を守る
取り組み

島根県益田市では、圏域の病院勤務医師数が大幅に減少し、疲弊した医師が離れていく悪循環に陥っていたことから、「益田の医療を守る市民の会」が設立されるとともに、市は地域医療対策室を設置し、医師を「支える」「招く」「育てる」ための各種の取り組みを展開しています。

調査の結果

病院経営を行う本市とは医療提供体制に違いはありますが学ぶべきところが多く、本市でも市民・病院・議会・行政が一体となって地域医療を支える体制づくりが必要です。

議会運営

各層との意見交換会など
先進的な取組みを調査

11/6~7



上越市議会の取組みを調査

新潟県上越市議会では、

地域で活動する団体や様々な立場の方から意見を聞くため、テーマを設定のうえ、特定の団体などと意見交換を行う「各層との意見交換会」を実施しています。各常任委員会でテーマと団体を決定し、対面方式に限らず、時にはグループワーク形式などで意見交換を行い、聴取した意見は各委員会の取り組みや一般質問などに活かしています。これまで対象とした団体は数多く、各分野の行政課題などについて、活発な意見交換がされるよう工夫していました。本市議会でも議

議会で活用
タブレット端末

上越市議会では、議会議論の深化、市民との情報共有、議会情報や資料の迅速な共有などを目的に、タブレット端末を活用しています。操作が苦手な議員も非常に便利であり、積極的に使って覚えようとする姿勢が大切であるとアドバイスをいただきました。導入する場合、会議での効果的な使用方法、紙資料の削減化など様々な面の考慮が必要ですが、将来的に必要なツールとして、タブレット端末の活用を研究していくべきです。

会報告会で市民の意見を聞く時間を設けていますが、貴重な意見を具体的に政策提言などに結び付けることが出来る手法を検討すべきです。

所管事務調査

令和元年産米の生産状況と
有害鳥獣の実態を調査

産業建設

10/24



捕獲わなの設置状況を視察

質向上に努めた栽培指導の徹底を推進していく必要があると考えます。「有害鳥獣の実態に関する調査」有害鳥獣の出没は、平成28年度以降イノシシの増加が顕著であり、それに伴い捕獲頭数および電気柵などの補助金の交付も増加しています。捕獲の任にあたる栗原市鳥獣被害対策実施隊では、捕獲後の処理に苦慮している状況にあります。

新みやぎ農協栗っこ管内の集荷及び作柄状況について調査しました。10月21日現在で管内倉庫に集荷されたうるち米の1等米比率は55・5%で、特にひとめぼれの1等米比率が低い状況でした。品質低下を招いた原因は、8月上旬の出穂期に高温が続いたことで、令和2年産米の作付けに向けては、新みやぎ農協と連携を図りながら、品

イノシシを始めとした有害鳥獣は、人口減少や耕作放棄地の増加に伴い今後増加の一途をたどると考えられることから、処理方法の検討も含め早急に有害鳥獣の処理施設を設置するべきであります。